

報告

西十南の役百周年記念行事

四回にわたる古戦場巡りと、墓前祭と

(1) 四月四日(日曜)三國峠を訪い、満朝の桜の花をくぐって古戦場を歩いた。

春四月には珍らしい雪が前日に降り、その残雪をふんで頂上に登った。桜を賞しながら雪の上を歩いた珍らしい日。

この日はまた、三國峠の桜マラソンがあり、内山観音はご網帳であり、ざっと歩いてみた。マイクロボスの能率を活かして、午後は石仏めぐりをした。菅尾石仏、犬館石仏、そして更に臼杵石仏まで見学の足をのびた。

この仏縁、戦没者の供養となれば望外の幸いである。

(2) 四月十一日(日曜)小雨にけぶる陸地峠に登った。地元直川村史談会と共催という形で

陸地峠の争奪は、官軍と薩軍が豊日國境地帯をその手中にするか失うかの、つばぜい合いの戦場であった。約一か月にわたる攻防戦で、官軍だけでも二十数名の戦死者を出している。

この日は道を赤木がムからしたが、あいにくの小雨、霧のこめた山道はすべり、かなり難行であった。

山頂台跡に直川史談会準備の塔婆を立て、ローソクさとし、香をくわらし、両軍戦没者の冥福をいのる。出席者二十名余

(3) 次は、若葉風に薫る五月五日(こどもの日) 今度は、青山藩江の史談会員が多数参加、津島畑山に登った。

津島畑山は、蒲江所最南端の波当津浦の北にそびゆる、標高五〇六M、豊日國境山脈の一主峰である。

明治十年七月十六日耕地、この台場を守っていた官軍は薩軍の急襲をうけ、二十三名戦死、二十数名負傷という損害であった。今は樹林の中に僅かにそれと察せられる跡が低くつづいて、百年の歲月の中に消え去ろうとしている。

この日ははじめての試み、会員運転の車七台を連ねての史跡めぐり、時、前後の連絡を欠いて困ったが、そのかわり行動力も大いに伸び、午後は下山の後、湯境を越し、高嶺を経て尾高知山に向かった。

佐伯惟治自水の地、尾高知廟を訪い、苔むした墓塔にもうでた。それから三川内梅木の光久寺、鷲野尾神社に参拝。一旦國道十号線に出て南に下り、腰口のお願神社参拝まで果たした。

(4) 次は今後の予定計画で、まず八月中旬の予告

宇目町の古戦場をめぐらる会 ↓↓目的地は黒土峠である。

期日 八月二十二日(日曜) 午前八時半大手前出発
行先 宇目町黒土峠・同 重岡長昌寺
乗物 会員運転自家用車 使用 乗合
会費 一般会員会費(一〇〇〇)円位 行当各自持参のものと
コースと見学する場所(案)

① 佐伯一番近(久留米)横川(見明峠)塩見(空塔) |
| 黒土峠(西南役古戦場) |

② 一重岡(長昌寺・警察分署跡) | 木越峠 | 大原 |
| 内水(神社外) | 上ノ地 | 久留米 | 香五 | 佐伯 |
申込受付 八月十五日まで(乗車割当等指示する)

小雨決行 晴天の節は八月二十八日、改めて申込のこと

(5) そして最後は、今秋十月、佐伯史談会主催

佐伯招魂所 墓前慰霊祭 (二三公共団体と共催)

(この詳細は、立案中 後日実行委員会と組織して行なう)